

一 建造物等調査事業の概要

事業の趣旨

善徳寺は本願寺八世蓮如を開基とし、一六世紀半ばに城端に招致されて以来、周辺の町立てに大きく関わつただけではなく、現在も信仰・祭り・各種行事等の中心となるなど、住民に限らず、人々の心のよりどころとして存在する名刹である。また、創建以来、一度の火災にも遭つていらない稀有な建造物である。

善徳寺についてはこれまで色々な調査がなされてきたが、その成果をまとめた上、正確に現状を把握し、地域における近世浄土真宗寺院の成立・発展など歴史的背景や意義を探るとともに、善徳寺ならではの文化的価値の再評価を行い、貴重な文化財として適切な保存と活用を図るため詳細調査を行うものである。

調査の経緯

近年、文化財を活かしたまちづくりの気運が高まる中、近世浄土真宗の大型寺院である善徳寺の価値や評価の見直しおよび伽藍建造物の保護・保存については、地元住民の大きな関心事であった。

平成一六年の町村合併の直前、善徳寺と関係者から城端町議会へ、善徳寺の価値の再確認を要望する「請願書」が提出され、それを受け、城端町は富山県へ保存修理および価値の再評価の要望を提出した。

合併後、南砺市教育委員会文化課が富山県教育委員会文化財課（当時）と協議したところ、評価のための資料を得るために、歴史資料調査と建造物調査の必要性について指摘があつた。

そこで平成一七年度から三年間、国庫補助事業として善徳寺歴史資料調査が採択され、調査を開始した。善徳寺だけでなく下寺五か寺や個人資料まで約一万六千点を悉皆調査し、平成一九年度に歴史資料調査報告書を刊行した。

その後、平成二〇年度から建造物等調査事業を開始した。四年間の予定で調査委員会を組織し調査計画を策定したが、検討の結果、境内地における建造物位置を正確に把握するための測量調査が必要であるとの判断で一年延長し、五年計画となつた。

調査の経過および調査方法

平成二〇年度から二四年度までの五年計画で、南砺市教育委員会が調査主体となり、調査委員会を組織して、その指導のもと調査を行つた。

善徳寺を構成する諸建築を調査対象とし、これまでの研究を踏まえながら、構造の補足として、文献や絵図等の発掘に努めた。また、近世社寺建築調査報告書等による比較調査を試み、まとめとして調査報告書を作成した。

平成二〇年度は、事務局による予備調査を行い、過去の調査報告や実測成果の精査を行つたほか、調査委員会を立上げ、調査計画を策定した。

平成二一年度は、境内地における建造物位置を正確に把握するための境内地測量を行つた。

平成二二、二三年度は、富山国際職藝學園に委託して個別建造物の詳細調査を行つとともに、文献調査として、調査委員による新たな資料の掘り起こしを行つた。

平成二四年度は、これまでの調査内容を踏まえて、他地域との比較調査を行い、調査報告書を作成した。

なお、平成二〇年六月には、文化庁にて事業説明を行つた。

調査組織

調査委員会

委員長	上野 幸夫	（職藝學院教授・南砺市文化財保護審議委員）
副委員長	朝日 淳	（前善徳寺宝物館担当）
委員	土屋 敦夫	（金沢湯涌江戸村村長）
委員	齋藤 耕三	（前善徳寺宝物館担当・前城端町文化財保護委員）
委員	石黒 有恒	（善徳寺宝物館担当）
委員	永井 敏	（南砺市教育委員会理事）

調査助言

富山県教育委員会	生涯学習・文化財室長
----------	------------

調査事務局

南砺市教育委員会	文化・世界遺産課（平成二三年度まで文化課）
----------	-----------------------